

backslash

20 **EDGES** 22

私たちの世界を形作る  
36のカルチャーシフト



# 目次 TABLE OF CONTENTS

EDGEとは	03	<b>HINDSIGHT IN ACTION</b>	06	<b>HACKING THE MATRIX</b>	08	<b>HIDDEN FUTURES</b>	10
はじめに	04	<i>ROOTS REVIVAL</i>		<i>UNGLOTTED</i>		<i>GAP COLLAPSE</i>	
EDGEマップ	05	<i>NEXT-GEN NATURALISTS</i>		<i>GENDER RULES</i>		<i>CLIMATE CREDIT</i>	
		<i>CONSCIOUS CONVENIENCE</i>		<i>RELATIONSHIP REBELLION</i>		<i>TRAVEL RIGHT</i>	
		<i>CIRCULAR AFTERMARKETS</i>		<i>SEXUAL LIBERATION</i>		<i>FLUID SPACES</i>	
		<i>REWILD RESILIENCE</i>		<i>GUIDE US</i>		<i>HELICOPTER TECH</i>	
		<i>ZERO OUT</i>		<i>DEATH UNDONE</i>		<i>DATA RUSH</i>	
		<i>KINDER CULT</i>		<i>MONEY OUT LOUD</i>		<i>MOOD GEISTING</i>	
		<i>WORK-LIFE BOUNDARIES</i>		<i>MIND MAINTENANCE</i>		<i>ODD-YSSEYS</i>	
		<i>STABILITY PURSUIT</i>		<i>HEALTH HEDONISM</i>		<i>PLAY IT FORWARD</i>	
		<i>BODY DEBATES</i>		<i>INCLUSIVE BY DESIGN</i>		<i>OPTIMIZED ANATOMY</i>	
		<i>COUNTER CANCEL</i>		<i>WEALTH HACKING</i>		<i>LIQUID REALITY</i>	
		<i>PLATFORM POLITICS</i>		<i>ACTIVIST AWAKENING</i>			
		<i>STEALTH MODE</i>					



# EDGEとは

## WHAT IS *AN EDGE*?

EDGE / 'ej / noun

ブランドが中長期的なシェアを伸ばす原動力となる  
一定の規模と持続性を有する重要なカルチャーシフト。

### 01

EDGEは、人間の根源的価値に根差しており、消費者行動を通じて認識し、ビジネスへの影響が明らかに見て取れるもの。

### 02

EDGEは、一年以上持続して具象化しているカルチャーであり、それが未来に対しても重要な影響力を持つもの。

### 03

EDGEは、グローバルで通用し、Backslashが指定する地域の半分以上で顕在化しているもの。



# 2022、カルチャーを通して 「発展」の新しい定義を模索する。

## YEAR ZEROを振り返って

2021年、私たちは“Year Zero”が世界の物語の中心になると考えていました。次々に襲いかかる厳しい現実、社会的規範や個人の信念は一新され、新しいスタートを余儀なくされる考えました。あらゆることが見直され、企業にとっても個人にとっても新しい物語を一から始める年になりうる、と。

しかし改めて一年を振り返ってみると、私たちはただ、パンデミックの中で立ち往生させられていただけだと感じます。懸命な努力も虚しく、2020年と同様、コロナの亜種と同じ様なフラストレーションに悩まされことも多い一年だったとも言えます。

## 空論から実行へ

“Year Zero”が終わりを迎え、2022年という新しい年が始まるにつれ、私たちは“次”に何が起きるのか、を意識するようになっていきます。この2年間は、これまでの生活やカルチャーを振り返り、何がうまく行き、何がうまく行かなかったのかを改めて評価する期間でした。そして今、学びを実践に移し役立てる時が来ています。

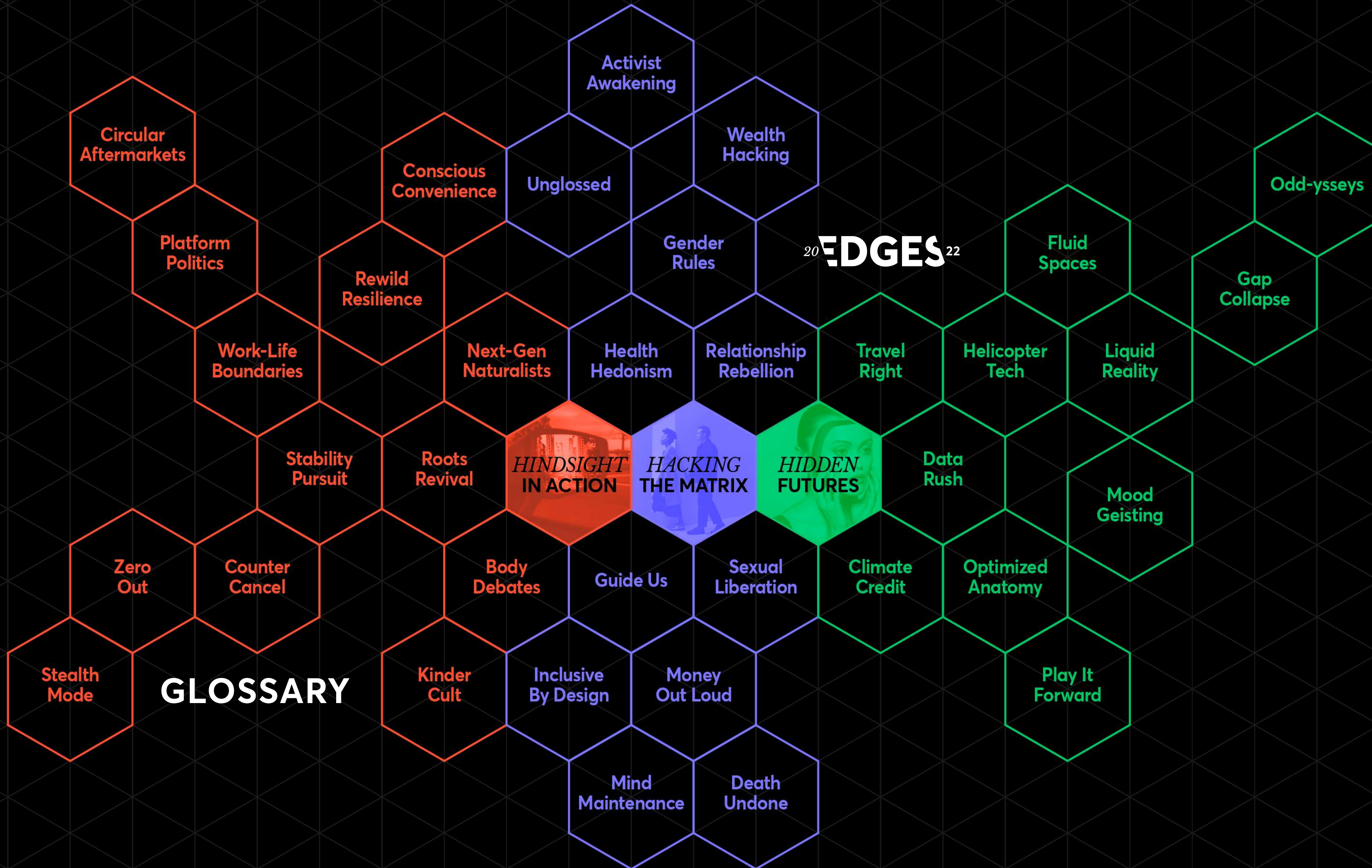
私たちには、私たちが望む未来のために必要な選択を行い、変化を遂げる準備ができています。その過程で意見の不一致が生じようとも、世界をよりよいものに構築するために、世界は前に進んでいくことでしょう。

## 発展に対する新しい試み

そんな中、改めて「発展とは何か」という問いが重要になります。長い間「発展」とは「犠牲を払ってでも進歩し続けること」と定義されてきていました。「より多く」「より速く」「より豊か」であることの追求が、過剰な生産や格差の拡大を生み出し、地球を危機に晒してきました。

しかしこの状況は変わろうとしています。世界は先見性のない暮らしを続けてきたことに気づき、新しい発展を求めて進み始めることでしょう。2022年のEDGE用語集では、その発展の再定義を3段階に分けて行っていきます：

1. **HINDSIGHT IN ACTION**  
学びを実行へ\ 過去を参考に未来へ向かう
2. **HACKING THE MATRIX**  
マトリックスをハック\ 使い物にならないルール・制度からの脱却
3. **HIDDEN FUTURES**  
隠れた未来\ 未知への勇敢な前進





# 学びを実行へ HINDSIGHT IN ACTION

未来に進む「発展」の意味を紐解くために、まずは過去を振り返ろう。

この一年、人々は団結し呼吸を合わせマインドを整理してきた。結果、自分たちが「どれほど制限なく暮らしてきたか」を自覚することになった。利便性の追求は過剰消費を促進し、大手IT企業の進化は無規制のスクリーンタイムを助長。さらには、急速に進行した都市化が自然とふれあう機会を生活から締め出していた。

ここ数十年間、私たちは未来に向かって先を急ぐばかりで、最も重要なことを過去に置き忘れてしまっていたのだ。

もし、探し求めて答えが、ずっとそばにあったとしたら。昨今立ち向かってきた難関が、文明の発達ではなく、懐かしい慣習によって解けるものであったのなら――？

これこそが、2022年の社会の発展を立て直すキーとなる考え方である。一度は取り下げたルールを再度導入する等過去から学びを得ることでゆっくりと、だがより確実に、前へと進むことが可能になる。

それこそ、人間社会でも少しの野生が感じられた時代に戻ったかのように。仕事が全てではなかった時代。循環性が優先されなかった時代。そして人の集まる場所がオンラインゲームではなく、自治会であった時代のように――。

過去を美化することは容易だ。過酷な現実を忘れ、あたたかな郷愁に浸っていたい気持ちも理解できる。

だが今、私たちに必要なのは、歴史を上手く活用し、過去の学びを用いて、進みすぎた文明とバランスを取ること。

間違えてから初めて、わかることもあるのだから――。





マトリックスをハック

# HACKING THE MATRIX

多くの社会発展が過去へ回帰することで実現すると言われる一方で、個人の進歩は解放によって実現すると考えられている。

どのように振る舞うか、何を大切にするか、何を秘密のままにしておくか—歴史を通じて学んだことが、今の私たちの基準となっているが、それは同時に、足かせにもなっている。

2022年現在、それらの足かせから解放されて、自由に何かを好きになる文化が認められている。性別、見た目、人間関係などに紐付いた規範から解放され、性別、生死、お金、メンタルヘルスに関する偏見を捨てることで、多くの人々が時代遅れな考えを捨て去り、今の自分たちに合う道を選んでいる。

未来を待ち望み、個人の自由を手にすることで、私たちを封じていた不文律を打ち破る。自律するかどうかは、私たち次第であり、この価値観の変化が私たちのあり方を変えて行くのだ。









# 未知なる未来 *HIDDEN* FUTURES



最後のこのチャプターでは、カルチャーのシフトが我々を導く「未知の世界」を探索していく。

過去の常識が当てはまらない生まれたての領域は、ベータテストや、常識を疑う新しい質問に満ちた新世界だ。

守るべきルールや規制も存在しない中で、試行錯誤を通してルールや規制の形が出来上がっていくだろう。人間の好奇心と探究心の結晶が、ここから先のページで現れるのだ。

自らの身体と心を使って、デジタルファースト時代の最適化を模索し、物理的な世界の捉え方を見直し、遊び心で人類の課題を解決していく。良くも悪くも、メタバースの世界へ（手探り）に飛び込んでいく。

このような巨大な実験が行われていく中、間違いが生じることもあるだろう。だが人間はじっとしてはられない生き物。

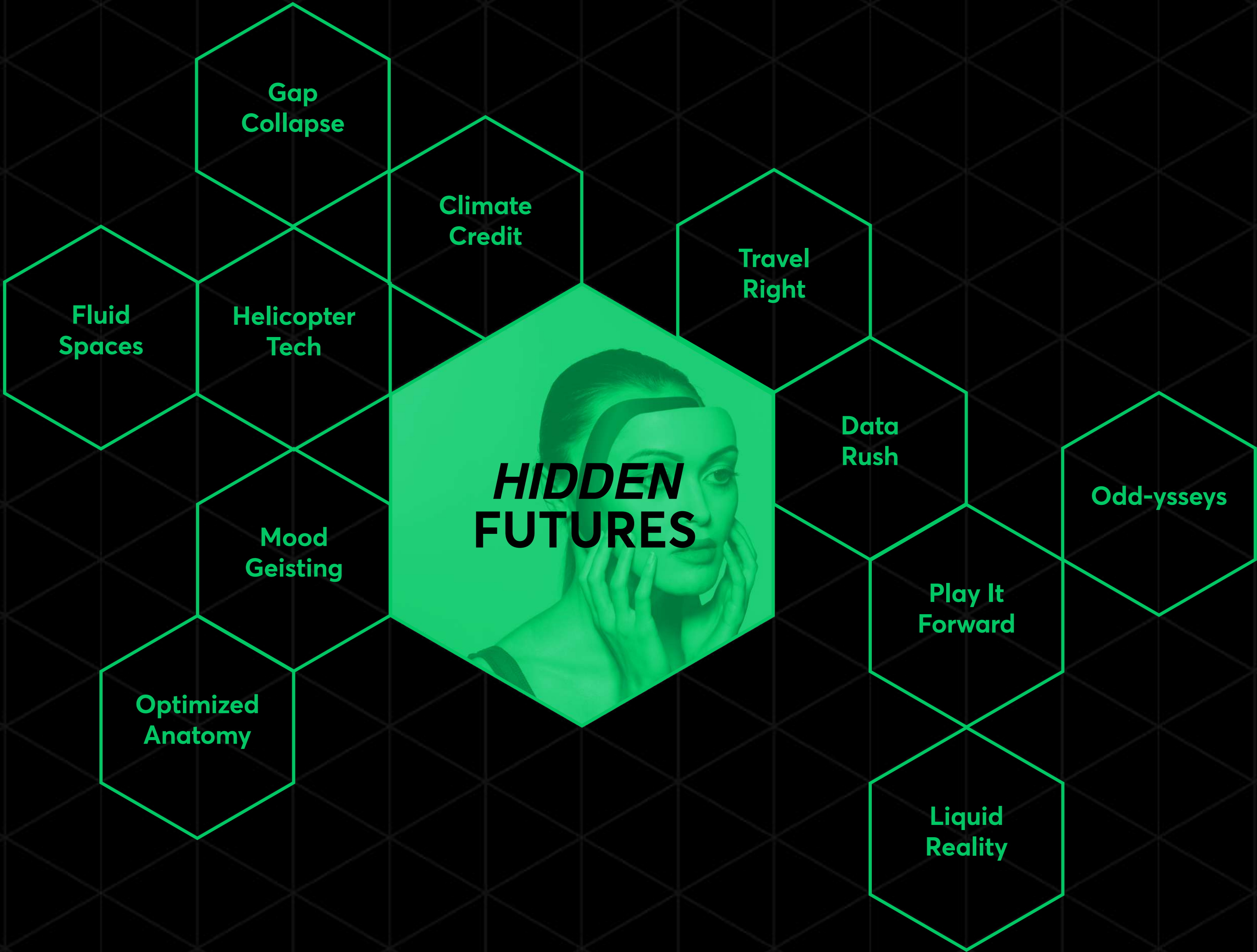
何が何でも前進をしてしまうのだ。

「この先は何があるのだろうか？」

「この仮説を証明するには？」

この探究心が未来を切り開いていく。企業の役目はこれらのテクノロジーの進歩が倫理的に、全人類のためになるような形で使用されていく方向に導くこと。

さー！偉大なる未来へ！





# THE TEAM

## STRATEGY

Agathe Guerrier \ Global Chief Strategy Officer  
Alyson Stevens \ Head of Connected Intelligence  
Cecelia Girr \ Director of Cultural Strategy \ Staff Writer  
Skyler Hubler \ Senior Cultural Strategist \ Lead Writer  
Johnny Thai \ Junior Cultural Strategist \ Staff Writer

## BACKSLASH REGIONAL LEADS

Asai Meyer \ North Asia  
Belynda Sim \ South + SE Asia  
Matthew Moran \ Oceania  
Wyron Abrajano \ Europe  
Raul Moreno \ Europe  
Ntombi Malaza \ Africa + MENA  
Cecilia Vallini \ LATAM  
Hannah Schweitzer \ North America

## OPERATIONS + PRODUCTION

Dana Fors \ Director of Operations  
Derrick DeBlasis \ Producer  
Jason Lauckner \ Producer \ Editor  
Victoria Naimushina \ Coordinator

## DESIGN

Chris Mawson \ Design Director  
Chi Yusuf \ Senior Designer

インサイト発掘を後押ししてくれるEDGEスポッターの皆さん、  
未来へのナビゲーション、ありがとうございました！



# ABOUT *US*

BackslashはTBWAのコレクティブを横断する70のオフィスに在籍する300人以上のカルチャースポッターが支えるカルチャーインテリジェンスユニットです。Backslashは世界中の出来事を注意深く観察し、分析することでTBWAとそのクライアントがカルチャーの変化をより良く理解し、予測するサポートをしています。

戦略、データとジャーナリズムをダイナミックに掛け合わせることでBackslashは今日のストーリーを明日のチャンスへと転換させます。

詳しい情報は [backslash.com](https://backslash.com) を御覧ください。  
Instagram の@tbwabackslashも是非フォローしてください。

お問い合わせ先：[dana.fors@tbwaworld.com](mailto:dana.fors@tbwaworld.com).





THANK  
*YOU*